



昨年続く豪雨 復旧半ばで再び被災

▲大雨での土砂崩れにより倒壊した円光寺（十王関寺地区）



▲県道長井大江線の冠水で高岡古屋敷地区が一時孤立



▲円光寺裏の土砂崩れ

再びの豪雨

9日から10日にかけての雨は、降り始めから10日までの累加雨量が228ミリを記録。9日午後9時から午前0時までの3時間では116ミリを観測し、昨年度に続く大雨となりました。

梅雨前線の影響による雨が長時間続くと予想された7月9日朝、町では、災害対策連絡本部を設置。大雨（土砂災害）警報の発令を受けて消防団に待機指示を発令し、各地区の自主防災組織と連絡をとるとともに連絡本部体制を継続しましたが、午後10時以降、雨は一層激しさを増し、午後11時に災害対策本部に切り替え対応にあたりました。10日午前0時20分に鮎貝及び貝生地区の17世帯に、0時49分には十王関寺地区の5世帯に避難指示を発令し、土砂崩れにより建物が倒壊した十王関寺地区への避難指示は12日正午まで継続したところです。

この間、各地区の自主防災組織と消防団には、夜通しで水防作業にあたっていただきました。昨年7月の経験を踏まえての迅速な対応により、このたびも人的被害がなかったことは不幸中の幸いでした。